静和幼だより

- 海外研修報告
- 第27回教育研究大会[地区大会]
- おやこんぼ
- 教員養成校訪問/豊橋創造大学短期大学部
- 特集『親と子の心を育てる幼児教育』(その4)肥後功一
- コミュニティ(保育の窓)
- 絵本の紹介/福音館
- もの想い(三松幼稚園/寿光幼稚園)
- 年間ナイスショット

こどもが
まんなか
PROJECT
只今全国展開中

NO.173
2015③
Spring

海外研修報告

期間■平成26年8月30日(土)～9月16日(火) 18日間
場所■フィンランド共和国 ポフヤンマー県ヴァーサ市

フィンランドの幼児教育制度及び教育事情がどのように展開されているのかを学ぶために研修生4名を派遣しました。研修生からの報告です。

西ヶ丘幼稚園　副園長　遠藤次郎

海外研修で訪れたヴァーサ市。9月1日。日本ではまだ夏なのに、朝8時の気温は6度！寒い、コートやダウンジャケットなど持ってきて正解！と思ったのもつかの間、私たちが滞在していた16日間は、ほぼ天候にも恵まれ、日中は18度と暖かく、屋外での活動も子ども達と一緒に楽しむことができました。

さて、私がフィンランドで直に見聞したかったことは、幼児教育での少人数学級および、教職員の働きやすい環境構成でした。

また、私は就学時前教育（プレスクール）の保育に興味があり、現場に入ると、21人学級で7人に1名の正教員もしくは専門教育を受けた補助教員が保育していました。

また、子ども達は自分で活動を選択し、教員は子ども達が取り組みたくなるような教材を用意し、主体性を育むように留意していました。

保育の打ち合わせは週に1日、1時間あまり、園長を交えて保育計画や今の子ども達の現状、次週はどのように保育していくかを打ち合わせする時間がしっかり設けられていました。また、最低年2回、保護者を交えて共に子どもにとって最善と思われる方向を検討し、保育計画を立てるそうです。その際用いる細かな資料も頂き、とても参考になっています。そして、必要となれば療育支援を勧めることもあり、認定を受けられれば、障がいを持つ子ども1人に1名アシスタントがついていました。

教員が保育に専念できる環境を直に体験することができ、園内研修や終礼などの教職員の話し合いの場の工夫に活かしていきます。

また、幼児施設はデザインもシンプルですが、機能美あふれ使いやすく、見学も含めて計8園とも素敵でした。現地の園長先生のお宅に招待され、ホームパーティを開いてもらったり、プレスクールの教師がご自宅や近隣を案内してくださったり、観光では見ることのできない貴重な経験をさせて頂き、本当にあっという間の18日間でした。

めぐみ幼稚園　教頭　山田まり子

今回の海外研修では、日本とフィンランドの教育の根本的な考え方の違いを数多く感じました。フィンランドにおける教育の特徴に少人数制と選択制があります。3～5歳児の場合、7人の子どもに対し1名の教師が配置され、20人程度のクラスに常に3名の教師がいました。活動する時には、その3名の教師がそれぞれに違う内容の活動を行い、子ども達はどの教師の下でその日活動しようかと選択します。なぜそこまで少人数にこだわるのかというと、幼児教育の中でコミュニケーション能力を最も重視しているからなのです。活動の選択も然り、教師主導ではなく、子ども主体の教育を行うために、子どもに自分の考えや思いを語らせ、友達同士でも話し合わせる姿勢を教師は常に大切にしていました。何かを子どもが作ると、教師はどういうものを作ったのか、どうやって遊ぶのかと丁寧に訊き、一人ひとりが答えるまで急かすことなく、最後まで思いを聴くのです。その姿勢は子ども達も同様で、真剣に友達の話を最後まで聴いていました。

また選択制では、3名の教師が同じ教育目標を達成するためのプログラムをそれぞれが考え、打ち合わせをした上で子ども達に選択させていました。限られた選択肢ではありますが、自分で選ぶことでそのものに対する意欲が増し、集中して行えるのだそうです。その中で、教員は一人ひとりの教育目標への到達度や、発達をじっくり見取ることができ、次に必要な課題を見出し、3名でアイデアを出し合いながら活動を計画していくのです。

このような環境の中で、子ども達の自主性が高まり、興味関心を持ったものに対して、学びを深めていく姿勢が養われていくのだと感じました。世界に誇るフィンランドの読解力や問題解決能力はこのコミュニケーションと自主性が基礎にあっての成果なのだと納得させられました。

象山幼稚園　教諭　武村朋子

北欧の国、フィンランド。遠く離れたこの地にも、子ども達の笑顔は溢れていました。

室内でのブロック遊びやごっこ遊び、園庭での遊具や砂場などで無邪気に遊ぶ子ども達の姿に、日本の子ども達との違いを感じることはありませんでした。

しかし、「森の学校（森での園外保育）」での子ども達の行動には驚かされました。高さ3メートルもの苔が生えた岩の上から滑り下りたり、木の実を採って食べたり、葉っぱや枝を拾い集めたり…足場が不安定な中でも平地と同じように駆け回り、自然物を利用しての遊びを展開していました。自然を身近に感じたこの子ども達にはきっと、当たり前のように自然を大切にしていく心が育まれていくのだろうと感じました。

読書量が世界一と言われているフィンランド。絵本の読み聞かせに日本とどんな違いがあるのか興味がありました。園で過ごす時間の中で、それぞれの活動の合間は子ども達が自由に本を読む時間になっていて、皆が積極的に本を選び、短時間でも楽しんでいました。また読み聞かせでは、物語を進めることより、絵本の世界を広げる声掛けを優先しているのが印象的で、その都度、子ども達に「どうして？」と語りかけ、意見や感じたことを聞き出していました。物語の筋、メッセージを伝えること以上に、子どもの思考力、対話力を促すツールとして絵本を活用することを重要視しているように感じました。「考える」ことの基礎は「ことば」、「学ぶ」ことの基礎は「考える」ことです。フィンランドがＰＩＳＡなどで世界一の教育と言われる基盤は、この「読書」が支えているようです。

視察研修で様々な園の活動に参加させていただき、多くの驚きがありました。中でも絵本に触れる機会の多さ、豊富な自然を活かした環境教育には特に驚かされ、今後の自園の教育にも活かしていける部分を感じ、とても有意義な研修の時間となりました。

静岡豊田幼稚園　教諭　大村大輔

「フィンランドではどのような教育が実践されているのだろう」出発の前から私の胸の中は大きな期待が膨らむばかり。空の長旅を終えヴァーサ市に到着するとそこはすっかり冬もよう。しかし、寒さとはうらはらに現地の先生方は私達をあたたかく迎えてくれ、安心した気持ちで研修に入ることができました。

ヴァーサ市の保育施設はどの園も教育環境が整えられ、子ども一人ひとりの育ちを大切にした教育が実践されていました。はじめて目にした森に出掛けての保育、臨場感溢れる素話、ポートフォリオなどは素晴らしく私にとって大きなインスピレーションを与えてくれるものばかりでした。

その中でとても印象深かったことは教師のプロ意識の高さでした。絵画、音楽、造形、運動など教師が得意なことを生かしながら自信をもって保育し、子ども達もその魅力に引き込まれ大きな楽しさを味わっていました。保育の進め方もとても丁寧であり、その日の目的をはっきりさせながらも子どもの興味関心に合わせながらじっくりと進め、結果ではなくプロセスをとても大切にしていました。また、子ども達が生きていく上でどのような学びが大切なのかということをしっかりと捉え、教師が物や出来事に出合わせていたということもよくわかり、改めて教師の役割を学ばせていただいたように思います。

私はディスカッションのなかで現地の先生に「幼児期の教育のなかで一番大切なことは何だと思いますか」というひとつの質問をしました。フィンランドはＯＥＣＤの学習到達度調査においてもトップクラスの国であるという先入観からきっと学びに関する答えが返ってくると思っていましたが、その答えは「子ども達がこの園に楽しんでくることだと思う」というものでした。「幼稚園が楽しい」それは私がこれまで一番大切だと感じていたことであり、自分の保育観の根底にあるものはこれでよかったのだと改めて感じた瞬間でもありました。子ども達にとって「楽しい」ということは生きる喜びを感じ、自分の生活をより豊かにしていく大きな活力だと思います。その楽しさを膨らめていくことができるよう、今後はこの貴重な研修で得たことを地域に合わせたかたちで実践し、子どもの豊かな育ちへとつなげていくことができればと思います。

第27回 静岡県私立幼稚園教育研究大会《地区大会》

東部地区

平成27年1月16日(金)プラサヴェルデ(沼津市)にて第27回静岡県私立幼稚園東部地区教育研究大会が開催されました。

開会式は沼津地区私立幼稚園協会鶴谷主一地区長が開会を宣言し、(一社)静岡県私立幼稚園振興協会田中邦昌副理事長から主催者挨拶をいただきました。その後、栗原裕康沼津市長、工藤達朗沼津市教育長より祝辞をいただきました。

続いて研究発表に移り、駿豆地区よりみなみ幼稚園、富士地区より鈴川幼稚園、富士宮地区より富士宮北幼稚園の3園による研究発表がおこなわれました。

みなみ幼稚園は「砂場遊びを通して自ら遊びを展開していく力を育てる～心身共に豊かな賢い子どもを目指して～」と題し、子ども達が自らやってみたいと強く好奇心を持って自発的に遊ぶ事、見通しを持って遊ぶ事の大切さを発表しました。

鈴川幼稚園は「『自然体験と食育』～自然環境を活かした『食』の教育～」を主題に、野菜作りや調理を通して、そして家庭と連携し、食育が子ども達の健やかな成長と発達にとても大切であると発表しました。

最後に、富士宮北幼稚園は「『遊びを育てる』～子どもの心に寄り添って～」を主題として、遊びを通して子ども達の心と体の発達を助長するには教師の言葉掛けがとても大切であると発表しました。

次の記念講演では、山梨大学大学院中村和彦教授をお招きし「健やかな育みを求めて」という題目でご講演頂きました。子どもの遊びの重要性をお話しいただき、子どもにとっての遊びや運動は「身体運動の発達」「認知的な発達」「情緒や社会性の発達」の発達領域を促す欠くことのできない成長の場であると語られました。また子ども時代の身体活動や健康状態が大人になってからの運動、スポーツなどの身体活動習慣に持ち越され、大人になってからの健康状態に影響するのです。子ども達が自発的に伸び伸びと喜んで遊ぶ環境を整え、普段の生活の中に「36の基本動作」を意識して取り入れ、子ども達の健やかな成長を助長できるよう教師として関わっていくことがとても大切だと述べられました。

閉会式では、次期開催地区である富士地区の草分由子地区長が挨拶をおこない、教育研究大会の幕を閉じました。

中部地区

平成27年2月4日(水)午後一時より、島田市プラザおおるりホールにて第27回静岡県私立幼稚園中部地区教育研究大会が開催されました。清水、静岡、焼津、藤枝、島田・榛南の五地区より約300名の参加者を集め、開会式には相田芳久静岡県私立幼稚園振興協会理事長及び増田昭夫島田・榛南地区長の挨拶に続き、染谷絹代島田市長より来賓祝辞をいただきました。

研究発表には清水地区の江尻幼稚園、東海大付属幼稚園、日本平幼稚園による発表を皮切りに、静岡地区からはふじみ幼稚園、若杉幼稚園、焼津地区からはみなと幼稚園、そして藤枝地区からは高根幼稚園、最後に島田・榛南地区からはみどり認定こども園、島田南幼稚園、島田学園付属幼稚園と、各地区より研究成果の報告がされました。結びに宮下友美恵静岡県私立幼稚園振興協会研修委員長より各地区とも研究主題につ

いて独自の目線から真摯に取り組む姿勢に感銘を受けたとの講評をいただきました。

記念講演には神戸大学准教授北野幸子先生より「遊びから学びへ」という演題で、幼児期から児童期への「遊び」と「学び」の関係性の違いと、そこにかかわる教師の役割の重要性についてお話いただきました。幼児は遊びの中に無自覚に様々なことを学んでおり、やがて迎える児童期の目的思考型の学びについて、子ども達が好奇心、探究心、あこがれをもって臨むことができるよう、また子ども達が自尊心と自己肯定感を持ち、自ら考え決定し行動できるよう教師は子どもの気づきに対し適切な援助ができるよう努めなくてはなりません。また、指示命令型よりもむしろ誘いや提案型の声掛けを意識し、目の前の子どもの姿についてその学びの軌跡を踏まえ、且つ年齢毎の発達に沿った学びの見通しを持ち援助に心掛けていくことが大事であると説かれました。短時間でしたが、北野先生の理論が凝縮しており、具体的でわかりやすいお話に、参加した先生方も大変喜び有意義な研修会となりました。

西部地区

平成27年1月24日（土）磐田市にあるアミューズ豊田ゆやホールにて、第27回静岡県私立幼稚園西部地区教育研究大会が開催されました。当日は遠州地区、浜松地区合わせて180名ほどの参加者がありました。浜松地区私立幼稚園協会水野明地区長の開会宣言に続き、来賓でお越しいただいた磐田市水野義徳こども部長の祝辞がありました。

研究発表では遠州地区の3園による発表がありました。「人と関わる心を育む」という遠州地区共通の研修テーマのもと、掛川中央幼保園は「あそび」において集団遊びの中で3歳児の事例を挙げながら、他の園児との交流を通して人と関わる心を育む過程や、それぞれの年齢や言葉の獲得に応じた関わり方の違い、保育者の援助の仕方の大切さについての発表を行いました。

龍の子幼稚園は「食育」について、日々の食育についての保育の事例を映像で紹介しながら、毎日の食の大切さや楽しさ、今行っている食育の保育を発表しました。

磐田聖マリア幼稚園は「絵本」を通しての内容で、今までの保育の中での絵本についての反省から、どう絵本を活用すれば良いか、それをどう保育の中で活かすのかという発表がありました。

いずれの園も3年間にわたり深く掘り下げてきた内容で、これまでの取り組みの蓄積から得たもの、多くの実践の中で経験した反省や成果から考察したことなど、これから更に質の高い保育の実践を保育者自身が目指した内容の発表でした。

その後、大阪総合保育大学大方美香教授による「幼児のあそびの連続性」についての講演がありました。こどもが集団の中で自分と周囲に対する認識、経験におけるその認識の違いをふまえながら、保育者が毎日のあそびの中でうまく援助することが重要であるとのお話をいただきました。私たち保育者が多様性というものを理解した上で声をかけること、援助することが非常に重要であり、そうしたあそびの連続性において自己肯定感が育まれていくとの内容でした。

私たちが、まず全ての子どもが発達の途中であるということを理解し、あそびの中でどういった援助や声かけがあそびの連続性を広げることができるのか、常に保育者が意識して保育することが大切であるとお話ししていただきました。

これからの保育に対し非常に重要な内容のお話で、私たちが自分自身の保育を振り返る良い機会となり、大変充実した研究大会となりました。

おやこんぼ

おやこんぼ推進プロジェクト通信

親子の触れ合いの大切さを伝えよう

「２０１１年から静岡県全体の活動として、各地区で行われている『おやこんぼ』。今回は富士地区の活動をみなさんに紹介させて頂きます。

県内各地区において、地域の幼児教育を活性化するために《子育てフェア》を実施されていると思います。地区において取り組み方は様々ですが、富士地区では富士山こどもの国を会場に、富士地区17ヵ園の教職員が一同に集まり、富士常葉大学の協力のもと、土曜日の午前中を使って実施されています。

園内の環境を利用し、様々な工夫を凝らし、8ヵ所の遊びのポイントを設置、シールラリー形式で行って、親子で楽しめる遊びを展開されました。「けんけんぱ」「空き缶積みゲーム」「○×ゲーム」そして「望遠鏡で動物を探すゲーム」などを考えて、来園する家庭に、親子が楽しめる遊びを提供し、笑顔や笑い声いっぱいのフェアになりました。

《子育てフェア》は、地域の子ども達の健やかな成長を促すために協力するという私立幼稚園の機能を発揮し、地域の幼児教育センターとしての役割を果たす大切な活動です。親子で触れ合いを深める機会と同世代の子を持つ世代間の交流を図る場として、素晴らしい成果があげられる活動です。その《子育てフェア》に富士地区では『おやこんぼ』というネーミングとキャラクターを使用しています。

富士地区では『おやこんぼ』活動の中の、《毎月15日はテレビを消しておやこんぼ》の活動に地区全体で取り組んでおりますが、このようなイベントにも利用しているのです。シールラリーのカードを「おやこんぼカード」と名づけて、キャラクターを散りばめたり、幼児・小学生・中学生・大人と丁寧に区切ってある入場券にも、可愛いキャラクターを使って、園児の馴染みのあるキャラクターがメッセージを投げかけています。

『おやこんぼ』と言えば『ノーテレビ』と、勘違いされている方もまだまだいらっしゃいますが、『おやこんぼ』は、家庭に対して、親子で過ごす大切な時間を推進する活動です。ですから、このような地区の活動の際に、『おやこんぼ』の名称やキャラクターを使って、子ども達にとって、「親子で楽しく過ごす事が大切ですよ。」と投げかけることも、重要な活動の一部となる訳です。

子どもや親の心に『おやこんぼ』という言葉が残り、《親子の触れ合い》というものが、親子で生きていく中で大切だということが少しでも伝わっていくための活動ですから、ぜひ皆さんの地区でも使用していただき、静岡県全体の幼稚園の家庭に広がることを期待しております。

各園が独自の教育で、家庭における親子の触れ合いの大切さを伝えておられるのはもちろん承知しております。今度はそれを静岡県全体の提唱として、みんなで親子の絆を深めることに繋がる活動をしていきましょう。単体で動く事と団体で動く事。様々な角度から、この時代の社会に訴えていかなければならない、大切なことです。

教員養成校訪問――豊橋創造大学短期大学部

平成27年2月12日（木）午後に豊橋創造大学短期大学部幼児教育・保育科を広報委員会関係者3名と広報委員の幼稚園で働く同校の卒業生1名の4名で訪問しました。

同校の所在地は豊橋市牛川町で、豊橋駅の北東約2キロメートルの豊川のほとりに位置しています。

当日は、初めに学生との話し合いを行いました。その場には同校から幼児教育・保育科長の佐野真一郎教授をはじめ5名の教職員と静岡県出身の1年生9名の学生が参加してくださいました。

幼児教育・保育科の定員は1学年100名で学生の25％から30％が静岡県西部地区の出身でその多くが同地区に就職しています。就職先は保育園・託児所が65％、幼稚園が25％で保育園の割合が高いのが実情でした。

学生の皆さんとの話し合いでは、まず通学の状況や同校を選んだ理由を尋ねました。自宅から通学している学生がほとんどで、通学におおむね1時間半をかけていました。中には親から1人で生活することを勧められ下宿生活を始めた学生もおり、1人での生活を始めて、初めて親のありがたみがわかったと語る学生もいました。

学生たちは同校を選んだ理由として、「オープンキャンパスで先生と学生との距離が近く感じられ親近感を持った」、「先生が優しくなんでも相談に乗ってくれた」などと語り、学校を選ぶにあたってオープンキャンパスでの経験が大きな要素になっていました。

次に、就職先の希望について尋ねたところ、学生達は「0歳から2歳児の発達の援助に興味がある」、「幼稚園は園児とたくさんかかわれる」など1年時での幼稚園、保育園の実習の経験を通して様々なことを感じ考えていましたが、ほとんどの学生はまだ将来の方向を決めかねている状況でした。

広報委員の園で働く同校の卒業生は、「幼稚園の実習や夏休みに園にお手伝いに行き、園児との遊びの中で園児以上に楽しんでいる自分に気づき幼稚園に入りたいと思った」と語っており、就職先の決定には実習等の経験が大きく影響しています。最近教員の求人が難しくなる中、実習機会を積極的に提供して有意義な実習に心掛け、学生に幼稚園の魅力、保育の喜びを体験してもらうことがこれまで以上に大切になると思いました。

また、集まった学生はいずれもピアノを苦手としており、ピアノの試験があることが幼稚園への就職をためらう一つの要因になっていることも伺えました。これに対して、ピアノは上手に弾けなくても、子ども達に歌うことをやめさせないでほしい。読み聞かせが上手にできるなどと同じようにピアノは教員選考に当たっての1つのアイテムにすぎないと考えている園長が多いことを説明しました。

学生達との話し合いの後、保育実習室など学内の施設を見学しました。ピアノの個人レッスン室が19室あるのには驚きました。その後、伊藤晴康理事長兼学長に挨拶をし、学生との話し合いに同席していただいた先生方と懇談しました。

同校は東三河及び遠州地区で幼児教育にかかわる教員養成に31年の豊富な実績と経験を持っています。学生達からは「先生方に引っ張ってもらい、花に水を与えられているような感じを受けて」と表現していましたが、勉学に励んでいる姿が見られました。最後に、お忙しい中私達のために貴重な時間を割き、お話を聞かせていただいた皆さんにお礼を申し上げ、同校を後にしました。

特集

親と子の心を育てる幼児教育 4

意欲を引き出す2つの条件【その2】

島根大学理事・副学長
肥後功一

リハビリテーション病院や国立特殊教育総合研究所に勤務の後、島根大学教育学部講師、助教授、心理・発達臨床講座教授を経て現職

専門分野 / 教育臨床心理学・発達臨床心理学
研究テーマ / 教育（保育）におけるコミュニケーションとその障害，心理臨床相談・教育相談・発達相談の理論と方法，家庭における子どもの育ちと“ことば”の問題

大学・大学院での主な担当授業科目 /
教育臨床心理学概説、障がい児者臨床心理学特論、臨床心理査定演習など

所属学会 / 日本心理臨床学会・日本特殊教育学会

1 基本的信頼ということ

子どもの意欲（外界と積極的にエネルギーを交流することで自らを育てようとする人間的な力）をどう引き出すか、というお話の続きです。前回は乳幼児期の「食に向かう気持ち」が重要な意味をもっていることを確認しました。もう一つの条件、それは基本的な心の安定（安心感）が確保されていることです。心理学者エリクソンは、これを「基本的信頼（basic trust）」とよび0～1歳の乳児にとって、その獲得をめぐる外界とのやりとりこそ人生で最初に出会う心の危機だと考えたのでした。

ほとんどの人々にとって、この最初の1年間は人生で最も祝福された時期といえるのではないでしょうか。あくびをしては可愛いといわれ、泣いては可愛いといわれ、温かなまなざしに囲まれて文句なしに愛される…そんな稀有な時期ではなかったかと想像されます。もちろんいつもすべてが快感によって満たされているわけではないでしょう。たまたま泣いても誰も来てくれなかったり、求めても応じてもらえなかったりすることもあるでしょう。お母さんが不機嫌なときだってあるはずです。そうした日々の繰り返しの中で、この世界への信頼感（不信感）、外界への安心感（不安感）が降り積もり、心の基盤が形づくられるというエリクソンの考えは示唆に富んでいます。というのも私たちは誰一人、その大切な時期のことを思い出すことができないのです。それは残念なことである以上に不思議なことであり、そしてちょっと怖いことかもしれません。私たちは自分自身の心のもっとも土台となる部分に何がどのように埋め込まれているのかについて、その形成過程を辿ることができないのです。

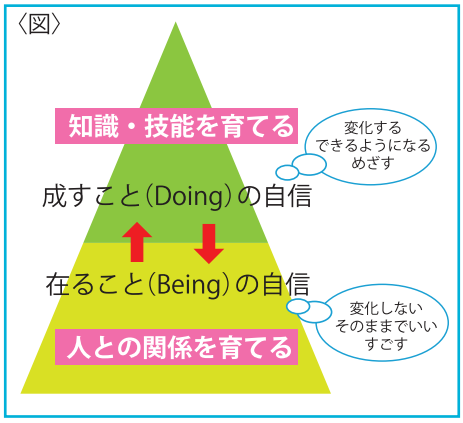
こうした心の安定にかかわる最重要部分がいつ頃までにどのように形成されるのか、また

これと関連して「私」という意識がどのように芽生えてくるのかについて、エリクソン以外にも乳幼児精神医学や周辺領域の研究者がいくつかのモデルを提出してきました。たとえばイギリスの精神分析医であるウィニコットは「存在する感覚（the sense of BEING）」ということを重視して「存在することの後に、行うことや行われることがある。まず存在することなのだ。」と述べました。

❷ 主体性の発揮を支える土台 ～在ることの自信

図は、こうしたウィニコットの考えをベースにしながら、子どもの意欲的な行動をどのように育てればよいかをわかりやすいモデルにしたものです。子どもだけでなく、私たちは「何かができる」ということに支えられている面があります。今までわからなかったことがわかるようになる、できなかったことができるようになる、それは自分の成長を感じられるとともに、もっとできるように、もっとわかるようになりたいという意欲につながる非常に重要な体験です。それが図の上の Doing（成すこと）の自信です。学校教育は主としてこの Doing の世界を鍛え、「できる、わかる」感覚を通じて意欲や主体性を引き出すことをねらって子どもに働きかけます。めあてを決めて「めざす」こと、成長とともに「できること、わかること」が増え進歩すること（変わっていくこと）が重視されます。特に子どもの成長が著しい幼児期から青年期にかけては、この Doing の世界において知識・技能を伸ばすことが教育の中核になっていきます。最近では外国語を含む言語の領域や数的・科学的認識の領域などで、幼児期への働きかけが強まる傾向があるようにも感じられます。

〈図〉



けれどもこの Doing の世界を支えている Being の領域があることを忘れてはなりません。できることやわかることは大きな自信になる一方、どうしても人との比較や競争にさらされ、評価や選考といった外からの眼差しを向けられることも多く、大きな傷つきの原因にもなります。こうした Doing の世界に果敢に向かっていくためには、しっかりとした Being の自信に支えられている必要があります。知識や技能の高い低いでも人との比較による優劣でもなく「あなたがそこに居ること、それは何にも代えられない価値がある」というシンプルなメッセージがきちんと心に落ちること。安心できる場所や人の中で、そこに居るだけで自分の存在が認められ大切にされていることが感覚的に伝わり身体に満ちてくること。それが Being（在ること）の自信であり、人との関係（初期的にはやはり母親を中心とする家族の中での人間関係）が育つ中で形成されるものです。何かをめざして変わることではなく、お互いの変わらない関係の中で「すごす」ことや「無理に変わらなくていいよ、そのままでいいよ」（在るがままのあなたが丸ごと肯定される）というメッセージが大切にされます。この Being の土台がしっかりと形成されていることが、教育のめざす主体的で意欲的な Doing を支えるものなのです。

エリクソンのいう外界への基本的信頼を獲得し、乳幼児期をかけて Being の土台をしっかり固めていくには、具体的にどのような関わりが必要なのでしょうか。また今の子ども達はどこに課題を抱えがちなのでしょう。次回はそのあたりにお話を進めて参りましょう。

子ども達のつぶやきを大切に

しょうえい幼稚園　厚見 誌保

私は、4月から年少クラスの担任になりました。初めは、園生活に慣れる事やけんかの仲裁、活動の進め方など分からないことが多く不安や緊張でいっぱいの毎日でした。

しかし、幼稚園へ行くと、毎日キラキラと輝く笑顔でパワーをくれるお友だち。「一緒に家族ごっこしよう」「わくわく広場（駐車場にある園庭）行こう」と遊びに誘ってくれるお友だちや「ブルドーザー作りたいんだ～」と制作などを提案してくれるお友だちがたくさんいました。私は、この瞬間・時間を無駄にすることなく、子ども達が充実し、少しでも多くの経験が出来るように遊びの中でのつぶやきを大切にしていこうと考えるようになりました。

子ども達それぞれの個性や特徴、良いところを見つけて認め、たくさん褒めることで自信につながり、一人ひとりがのびのびと楽しんで園生活が送れるのだと知ったからです。

そのため、保育をする際、子ども達のつぶやきにしっかりと耳を傾け「今、何に興味を持っているのか」「どんな遊びに夢中になっているのか」などを知り、子ども達のちょっとした変化にも気づいていけるようにと日々心がけています。お友だちが自ら心を動かして、わくわくどきどき様々なことに進んで挑戦しようとする環境構成や言葉がけが行えるように、先輩保育者の方々の真似をしたり、アドバイスを頂いたり、お友だちとおもいっきり遊んでいく中で見つけていきたいです。これからも、お友だちの「やりたい」「やってみたい」と思う気持ちを大切にして、柔軟に対応し、積極的に関わっていきたいです。まだまだ、未熟なことばかりで、子ども達や先輩保育者の方々に助けて頂くことばかりですが、私に出来る事を精一杯、工夫して保育を行っていきたいと思っています。

3学期から新園舎となり「小さなしょうえい村」での生活が始まりました。お部屋では落ち着いてじっくりと制作などを集中して行える環境、一歩外に出ると長い廊下があり、おもいっきり走り回ることができます。この素晴らしい環境を大切に、メリハリのある生活の中でお友だちと一緒にたくさんの事を学んでいきたいと思っています。

幼稚園教諭になって

横内幼稚園　小玉 雅

私は憧れの幼稚園教諭になって約10カ月が経ちました。私は年少組の担任をしています。4月の入園式では大勢の子ども達、保護者の前に立ち「保育者になる」と改めて実感をし、身が引き締まる思いでした。知識・技術共に不十分な私が子ども達を指導していけるのか、と大きな緊張と不安を感じました。またそれと同時にこれから過ごしていく子ども達との生活を想像し、楽しみな気持ちで一杯になりました。

4月当初、保育室では多くの子ども達が泣いていました。しかし、家庭訪問に行った際にはいつも泣いている子が元気にお家で動き回っていたり、笑顔いっぱいに楽しそうにお喋りをしていたりする姿を見てとても驚きました。私はその姿を見て「子ども達が安心でき、自然と笑顔が溢れる環境にしたい」と基盤となる目標を見つけました。私は、この事を常に思いながらこれからも子ども達と接していきたいと思います。

子ども達と過ごしていると大きな成長に驚くこと、元気をもらう事が多くあります。出来なかったことが自分一人でも出来るようになった時に「出来たよ！」と駆け寄って伝えて来る子もいれば、少し照れくさそうに伝えてくる子もいます。一人ひとりによって伝え方、表情の違いはあるけれど、どの子も笑顔が輝いています。その子自身も成長の喜びを感じることで次への成長に繋がっていくのだと感じます。私自身も少しでも変化、成長をしているのではと考えて見直してみることで反省と共に自信を付け、新たな成長に繋がるのではないかと子ども達から発見をすることが出来ました。

幼稚園教諭になり、自分の未熟さに反省をする日々です。多くの先生方からのご指導や励みになる言葉を掛けて頂き、また子ども達から学ぶこともあり元気づけられる毎日です。大切な幼児期に携われることに誇りと責任を常に心に置いて子ども達と向き合っていきたいです。1年を通して学んだこと、反省点を活かしてこれからの保育に繋げていき、自分自身成長をしていきたいと思います。

今日も子どもと

すすき幼稚園　森田 恭子

幼稚園の先生になったときが22才、今は32才なので、いつの間にか10年の月日が流れていました。

初めて幼稚園バスに添乗した頃は、当たり前のように乗り込んでくる子ども達を受け入れるのに必死ですごく不安で足元がふわふわとしていたことを、昨日のことのように思い出します。

日中は保育に必死で、帰りのバスではグッタリ、家に帰ればさらにグッタリ。朝体調が悪くて親にとめられても「行かなきゃならないから。クラスの子がいるから」と出掛けていたことも何度もありました。

まさに無我夢中。でも幼稚園の子と過ごす日々は毎日新鮮で、元気をもらって夢のようでもあり幸せな日々を送りました。

「もう体力が続かない」と悩んだり、腰痛になったときには「このまま寝たきりになるのか」と沈んだり…。明日も幼稚園に行けるのか、自分でも分からない日もたくさんありました。

いつの日か結婚をして、気づけば出産をして今は旦那と娘に支えられての出勤です。まさか子どもを産んでからも幼稚園の先生ができるとは思いませんでした。

現在はフリーで、0才児から5才児と関わることができます。担任とは違う視点が冷静に持て、保育について改めて勉強の日々です。そして、これまで以上に子どもの心に寄り添うことや環境を整えることに意識をするようなりました。それから、保護者の方を尊敬する気持ちも一層大きくなりました。

クラスの子を最優先に愛していた頃と同じように、今度は中堅として、先生方への愛情とサポート。それから、守らなければならない家族のこと。これまでのように、ガムシャラにはいかないもどかしさを抱えていますが、こうして幼稚園と共にある自分の人生が不思議で、感謝をしています。

子ども達と先生方、自分の成長を楽しみに、また一歩、幼稚園と歴史を創ってゆきたいと思っています。

笑顔は神さまからの贈り物

蒲原聖母幼稚園　遠藤 由奈

新任教員として入ってからあっという間に2年が経とうとしています。当初は自分も園児として通った幼稚園に先生として戻ってくることが出来た嬉しさだけでした。ところが、いざ子ども達を前にすると関わる事への楽しみよりも、クラスを持つことへの不安や緊張の方が大きかったように思います。その不安が消えていったのはやはり子ども達のお陰です。子どもの笑顔とこんな私でも「先生」と呼んで頼ってもらえる事で幼稚園教諭の一歩が踏み出せました。初めて家族と離れ集団生活を送る子ども達はもちろん、ご父母の方も不安を感じていたはずです。そこでまず私自身が不安な時こそ笑顔でいるよう意識するようになりました。そして日々の生活に追われながらも、行事を終えていく度に幼稚園教諭のやりがいを感じることができました。

今年度は、持ち上がりで年中組の担任をしています。運動会やクリスマス発表会では子ども達の成長に驚きました。指導にいっぱいいっぱいだった年少の時と比べ、今年は子ども達から「練習やりたい」「早くやろう」と声がかかりました。クラスの一体感とやる気を感じることができ、これこそが保育なんだと強く実感できました。声掛けやメリハリのある練習時間の設定が、いかに子どもたちの意欲を引き出すのかを学びました。子ども一人ひとりをよく観察し、指導や援助を模索しながらも大きな行事を終えることができました。年中児らしく子ども同士で仲直りの方法を見つけている姿にも成長を感じ嬉しくなります。

また、諸先生の支えはもちろんですが、ご父母の皆様にも励まして頂いた2年間です。初めは話すことさえ緊張し、戸惑っていた新米の私に「好き嫌いが無くなったのは先生のお蔭だよ」「うちの子先生大好き」と掛けて頂いた言葉が、どれだけ力になったかわかりません。支えられてばかりですが、子ども達と共に喜び少しずつ支えていけたらと思います。

まだまだ毎日の保育は反省することばかりです。少しでも今日は良い保育ができたと思える日が増え、自分に自信をつけていきたいです。一緒に働いている先生方からたくさんのアドバイスやご指導を受け、経験を重ね、子ども達と共に成長できる幼稚園教諭でありたいです。

ふくざわゆみこの世界

作者のことば

かなちゃんは、面白いものを見つけると、それ以外のものが全く目に入らなくなる女の子。ほったらかしのブルくんは寂しがったり、すねてしまったり……。でもかなちゃんがご機嫌で遊べるのは、きっと大好きなブルくんがかたわらにいてくれるからかもしれないなぁと、描きながら思っています。

こどものとも年少版
『ブルくん かなちゃん ありんこくん』
2015年4月号
定価420円（税込） 2才から

犬のブルくんとかなちゃんは大の仲良し。一緒にありの行列を追いかけているうちに、かなちゃんは大事なぬいぐるみとリボンをなくしたことに気づき、大泣きします。ブルくんが無事見つけ出しましたが、かなちゃんはぬいぐるみを抱いて、去ってしまいます……。ブルくんとかなちゃんの交流を温かくユーモラスに描いた絵本。

ブルくんとかなちゃんのシリーズ

ブルくんとかなちゃん
かなちゃんの家にやってきた犬のブルくん。仲良くなりたいのに、かなちゃんはブルくんから逃げてばかり。どうすればいいかな？
定価（本体800円＋税） 2才から

ブルくん かくれんぼ
ブルくんとかなちゃんは大の仲良し。でも、今日はかなちゃんが遊んでくれません。ブルくんがタンスに隠れていると……。
定価（本体800円＋税） 2才から

モグラくんとセミのこくん
モグラくんは、迷子になったセミのこくんと出会い、一緒にモグラくんの家で暮らすことにします。地中の2匹の姿を季節の巡りとともに描きます。
定価（本体800円＋税） 3才から

ミミちゃんのぬいぐるみ
黙って持ち出したお姉ちゃんのぬいぐるみをボロボロにしてしまったミミちゃん。友達が一生懸命直そうとしてくれるのですが……。
定価（本体1,000円＋税） 4才から

小さなものが好きなクマさんと、大きなものが好きなヤマネくんの交流を描いたシリーズ

もりいちばんのおともだち
おおきなクマさんとちいさなヤマネくん
あるひ、クマさんとヤマネくんがケーキ屋さんでもらった苗を育てはじめると……。
定価（本体1,200円＋税） 4才から

ふゆじたくのおみせ
おおきなクマさんとちいさなヤマネくん
クマさんとヤマネくんは贈り物をしようと、ふゆじたくのおみせへ買い物に行きました。
定価（本体1,200円＋税） 4才から

めざめのもりのいちだいじ
おおきなクマさんとちいさなヤマネくん
崖からおちそうなミツバチの家を助けるため、ヤマネくんはクマさんを起こそうと…。
定価（本体1,200円＋税） 4才から

あめのもりのおくりもの
おおきなクマさんとちいさなヤマネくん
雷雨の中、ひとりであじさいを見に出かけていったヤマネくん。心配したクマさんは……。
定価（本体1,200円＋税） 4才から

※本の定価は、本体価格に消費税を加えた額となります。

福音館書店
〒113-8686 東京都文京区本駒込6-6-3
http://www.fukuinkan.co.jp/
駿河こどものとも社
浜松こどものとも社

心の言葉「大好きだけど」

三松幼稚園
保護者会会長　縣　一徳

私は小学校1年生、3歳、5カ月の3人の息子の父であります。
大切に思うから、大好きだから、本気で叱ってしまう。叱る時、口に出さず、心の中で言う言葉。
無意識に言っている言葉。
「大好きだけど」
お父さんの心の声は君たちには届いてないよね。
お父さんも、おじいちゃんの心の声は聞こえなかった。
叱られて、注意されて、ゲンコツもらった時には、言葉も耳に入らない。
とってもおじいちゃんのこと、苦手だったんだ。
いつも厳しくて、笑っていた記憶があんまりない。
いつも怖い顔をしてた。
だから聞いちゃいけないと思ったんだ。
僕のこと…好き？　大切？一緒にいたい？　ってね。
おじいちゃんはいっぱい心の中で（大好きだよ）って言ってくれてたと思うけど、その頃の僕には聞こえてこなかった…。
僕たち家族のために、頑張ってくれてたんだよね。
それがわかるまで、30年かかったよ。
今、僕は、君たちのお父さんになったけど、知らず知らずおじいちゃんみたいに心の声を口に出さずに
「何やってる！　また散らかしたのか！
片づけなさい！」
キツイ言葉だけ言ってしまってるね。
お父さんが「大好き」って言葉をつけて叱ったら、
もっと素直に聞いてくれるのかな？
大好きって言ったら、もっと気をつけてくれるかな？
大好きって言ったら、兄弟喧嘩が減るのかな？
お父さんがおじいちゃんから聞きたかった、
「大好き」をこれから言ってみようかな。

生まれてくれて本当に感謝してる。
一緒にいて、本当に楽しい。
君たちのおかげで毎日が本当に幸せだよ。
子ども達のかわいい寝顔を見てはあんなに叱らなくても…っと、キツイ言葉を反省する。
厳しくて怖かったおじいちゃんと同じやり方で、君たちを叱ってる。
たぶん君たちもお父さんのこと…苦手だよね。
お父さんも叱られるのは嫌いだったよ。
大切に思うのに、大好きなのに、ついキツイ言葉を使ってしまう。
でもそれは、君たちを嫌いだからじゃないんだよ。
昔の僕には聞こえなかった、心の声。
「大好きだけど」
君たちには聞こえるといいなぁ

楽しかった幼稚園

寿光幼稚園
母の会会長　山下 景子

お寺が母体の幼稚園、仏教保育を実践しています。合掌から始まり、合掌で一日の保育が終了します。大きな行事は本堂を使用する事が多く、厳粛な雰囲気の中で行われます。
住職さんでもある園長先生は本堂で会うと厳格で子ども達も背筋がピンと伸びる感じですが、普段はアイデアマンのおもしろい先生で子ども達の人気者です。
私には小学校3年生、2年生、年長の子どもがいます。私自身、今年で役員3年目となりお世話になった幼稚園に少しでも恩返しが出来たらという思いで、下の子どもが年長の時、会長という大役をおおせつかりました。
役員の仕事として運動会・お遊戯会など園の行事に関わる事が多く、普段の園生活や子ども達に対する先生方の細やかな指導、沢山の愛情も注いで下さる姿を真近で見る事ができ、親として感謝の気持ちでいっぱいです。
子ども達の体や心を作る食育にも力を入れており、日本の伝統的な行事を大切にしていて、それにまつわる由来や行事食を楽しんだり、年長になると旬を意識したクッキング活動を多く取り入れたり、植栽活動があります。子ども達が畑に行き、苗を植え、水やりを行い、育った野菜を収穫、そして食べ物の命に感謝して手を合わせます。あたりまえの事ですが、便利な世の中でこのことを感じるのは口で説明してもなかなか難しいものです。命の教育を受ける子ども達は本当に幸せな事だと思います。夏には、年長児と役員でサマーチャレンジに参加します。一緒にすいか割りを楽しみました。今年は園長先生がサプライズで甲冑の衣装をまといすいか割りに参加。子ども達は、初めびっくりしていたものの大喜びで盛り上がりました。育てた野菜を包丁で切り、バーベキューをしたり、事前のクッキングで作った梅ジュースを飲みながら楽しい時間、子ども達との会話も弾みます。本堂に場所を移し、先ほどまでの元気一杯の雰囲気から一転、ののさまから一人ひとりにおあかりを頂くと、今までとは違う幻想的な雰囲気に包まれ、なんとも言えぬ幸せな気持ちになり、心が洗われた様な深い印象が残りました。

この3年間で、沢山の経験をすることが出来ました。園長先生を始め先生方、役員の皆様に支えられ無事に任期を終える事ができます。本当に感謝しております。ありがとうございました。

1年間の ナイスショット特集

お弁当が大好き！

お相撲さんのお背中って広いんだよ～！

蓮華寺池公園の
ジャンボすべり台で遊んだよ

はっぱの仮面で大変身！

おいしいみかんみ～つけた!!

勇気を出して…『とべた！』

たこたこあがれ

高いところ気持ちいいなあ～♪

消防車から放水をしてもらったよ

たこたこあがれ

オシャレめがね似合うでしょ！?

わーい はっぱのあめだ

あっ ひみつきち み～つけた

やまめ、つかまえた！

きゃ～！空がさかさまに見えるよ～！

あやとり、くもの巣！満足 (＊^)v

だいこん、とったぞ～！

仲良し姉弟♪

はたらくくるま！

なにかいるぞ！どこどこ？

泥んこ遊び燃えるね！

静私幼だより
NO.173
2015.03.15

ナイスショット

大きな川作り大成功!!

みて～!!どろんこかいじゅうだぞ～!

あくしゅしよっ!でもちょっと照れるな～

畑でたくさんじゃがいもがとれたよ!

いらっしゃ～い! おいしいおすしだよ!

ほ～らほんまる つるつる どろだんご!

おもちがなが～くのびちゃった～

よっ!だいくさん!

ぼく宇宙人?

チビッコ消防団 消火活動始め!!

【編集後記】　先日ご縁あって某大学薬学部教授の講演を聞く機会をいただきました。「脳の活性化と緑茶～カテキン・テアニンの効果～」という演題で、緑茶に含まれるカテキンとテアニンには認知症の進行を抑えたり、その他にも抗ウイルス作用による風邪予防効果等もあるというお話でした。静岡県は健康寿命の男女平均が日本一で、その理由の一つに日頃からの緑茶飲用習慣があると言われますが、一方では若者の緑茶離れも進んでいるようです。お茶処静岡の県民として日々の生活の中に緑茶をいただく習慣を大切にしていきたいものです。

広報委員一年目の未熟な私ですが、あっという間の一年だった気がします。来年度も座光寺委員長はじめ広報委員メンバー皆様と共に、更に楽しさ満載の静私幼だよりをお届けできるよう、緑茶パワーで頑張りたいと思いますのでご指導よろしくお願い申し上げます。

広報委員/高洲幼稚園　武藤啓央

（表紙写真／高洲幼稚園）

発行人／相田　芳久
編集人／座光寺　明
広報委員会

発行所／静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創　レイアウト・イラスト／村松麗子

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。